

真鶴中学校だより 第三二十九号

鶴からの手紙

2021.8.31
責任者
市川 麻美

緊急事態宣言下の 二学期、スタート

「三十七日間の夏休み」が過ぎ去り、二学期が八月二十七日にスタートしました。

休み中、事故等の報告はなく、元気に登校する生徒の皆さんの姿があること、大変ありがたく思っています。保護者をはじめ地域の皆様に深く感謝いたします。

変異株による爆発的な感染拡大により、神奈川県に八月二日から緊急事態宣言が発令され、九月十二日まで延長されているところです。

昨年度とは違い、学校が休業することは避けられましたが、九月十日(金)までは、授業を短縮した午前日課にするとともに部活動を休止することとしました。今後、感染状況を見ながら徐々に通常日課へと進めていこうと考えております。ここでさらに感染



症予防対策について改めて意識を強く持ち、教育活動を進めていきたいと思えます。「密」を回避し、マスクの着用、手指の消毒の徹底等、ご家庭でのご指導もよろしく願います。

夏休み中、恒例の教科相談を行いました。のべ三十八名の生徒が活用していました。今後のマナーアワーも積極的に活用しましょう。

『間』を上手く とりながら・・・

昨年八月、九十六歳で亡くなった英文学者の外山滋比古さんのお話です。

間がないのが『間抜け』、間がありすぎると『間延び』。どちらも『間合い』がよろしくない。外山さんは、『間抜け』を嫌ったそうです。落語などを例に、『文章では間の呼吸が大切』と説いたそうです。

日本語には『間』のつく言葉が多くあります。『隙間、昼間、時間、空間・・・』『人間』は『じんかん』とも読み『世の中』という意味です。

人と人との関係や距離感こそが人の世を表すということだとすると、まさにコロナ禍でソーシャルディスタンスが求められる今、納得できる内容です。



コロナによって社会にもたらされた新しい『間』は、残念だったり味気ないものだったりしますが、不快なものばかりでもなさそうです。在宅時間が長くなり、家族

との時間が十分持てたとか・・・でも、やはり『適度な間』は、文章ばかりでなく人間関係にも重要で、距離がありません。『間延び』はよくありません。その場の空気です。『間』を上手に生み出すということにおいて、授業などは、オンラインよりも対面のほうがよさそうです。

一年以上経っても、なかなか先も終わりも見えない状況ですが、それでもいつもマスクの下では口角を上げて、何事もあきらめずに進んでいけたらと思います。

表彰も リモートで・・・

熱中症および新型コロナウイルス感染症予防のため、二学期始業式をリモートで実施しました。内容は、表彰と校長・生徒会長の話のみと簡略なものとし、時間が短かったのですが、各教室でモニターを前に、話には静



かに耳を傾け、表彰の場面では拍手をする生徒のみなさんの姿が印象的でした。リモートであっても緊張感のある始業式となりました。たいへんな事態の中ではありますが、落ち着いて二期のスタートを切ることができました。表彰者を紹介します。

(受賞日順)

第三十四回神奈川県中学校
柔道大会女子個人戦 第五位

吹奏楽部
第二十二回西湘吹奏楽コンクール
中学校B部門 銀賞

第五十回神奈川県中学校相撲
大会 男子個人戦 第三位
関東大会出場

特設陸上部@城山競技場

8月28日、小田原・足柄下地区総体 陸上競技の部が行われました。本校から参加した



のは、さん、さん、さん、さんの4名。さんが、100mと走幅跳で8位入賞を果たしました。

お願い

八月二十七日付け、町教育委員会からのお知らせにあったとおり、普段と体調が少しでも異なる場合等は登校の見合わせをお願いします。

登校後に、体調不良になった際には、原則として、すぐに帰宅していただきます。保護者の皆さまにおかれましては、確実に連絡をとることができるようご配慮をお願いいたします。

強い感染力のあるウイルスが爆発的に広まっている事態であることを踏まえ、ご理解、ご協力をお願いいたします。

幼小中連携の まど Vol.4

「ひなづる幼稚園ふれあい実習」
家庭科・ふれあい教育担当

7月8日(木) ひなづる幼稚園児を招き、ふれあい実習を実施しました。

この日に向けて、中3生徒は、園児に楽しんでもらえるような遊具づくりや遊びたくなる環境づくりについて考えてきました。いざ対面してみると「想像していたほど幼くなかった」など想定外のこともいくつかあったようですが、生徒からは、

「幼児の頭の柔らかさや固定概念にとらわれない考え方がすごいと思った。」

「幼児も私たちと同じように、最初は話せなくても最後は打ち解けられるんだなと思った。」

「幼児がどんなことば遣いで接するのか、どんな行動をしたら喜ぶのかわかった。」

などの感想があがりました。

昨年度はコロナ禍であったために実施できなかったこの実習。家庭科におけるふれあい実習の目的にとどまらず、幼小中一体で進めるふれあい教育の一環として今後もよりよい形で継続していきたいと考えています。

